

平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院
東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概説

I 囲碁普及事業（公益目的事業 1）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 囲碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 3 事務の効率化と経費の削減
- 4 囲碁大使の拡充

IV 「100周年ビジョン」の推進

概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

平成 29 年度も前年に囲碁界初の七冠同時制覇を達成した井山裕太九段を中心に棋戦が行われました。29 年 10 月には昨年失った名人位を奪取し、2 度目の七冠同時制覇を達成しました。これらの実績を評価され、30 年 2 月には同氏は囲碁界初の国民栄誉賞を受賞しました。

一方、7 月には 17 歳の芝野虎丸三段(当時)が全員参加棋戦の竜星戦で優勝し、10 月には同じく全員参加棋戦の阿含桐山杯全日本早碁オープン戦で 18 歳の六浦雄太三段(当時)が優勝するなど、若い力がトップの舞台上で活躍を見せました。

これらを含めた棋戦の結果は以下の通りです。(段位は対局当時)

- (1)棋聖戦(第 42 期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社)
井山 裕太 棋聖 — 一力 遼 八段
(井山 裕太 棋聖が4勝0敗で棋聖位を6連覇)
- (2)名人戦(第 42 期 名人決定七番勝負 朝日新聞社)
高尾 紳路 名人 — 井山 裕太 棋聖
(井山 裕太 棋聖が4勝0敗で名人位を奪取)
- (3)本因坊戦(第 72 期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社)
井山 裕太 本因坊 — 本木 克弥 八段
(井山 裕太 本因坊が4勝0敗で本因坊位を6連覇)
- (4)王座戦(第 65 期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社)
井山 裕太 王座 — 一力 遼 八段
(井山 裕太 王座が3勝0敗で王座位を3連覇)
- (5)天元戦(第 43 期 天元決定五番勝負 新聞三社連合)
井山 裕太 天元 — 一力 遼 八段
(井山 裕太 天元が3勝0敗で天元位を3連覇)
- (6)碁聖戦(第 42 期 碁聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟)
井山 裕太 碁聖 — 山下 敬吾 九段
(井山 裕太 碁聖が3勝0敗で碁聖位を6連覇)
- (7)十段戦(第 55 期 十段決定五番勝負 産経新聞社)

- 井山 裕太 十段 — 余 正麒 七段
(井山 裕太 十段が3勝1敗で十段位を防衛)
- (8)阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦(第24期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
高尾 紳路 九段 — 六浦 雄太 三段
(六浦 雄太 三段が勝ち初優勝)
- (9)阿含・桐山杯日中決戦(第19期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
六浦 雄太 日本桐山杯 — 柁 嘉熹 中国桐山杯
(柁 嘉熹 中国桐山杯が勝ち優勝)
- (10)新人王戦(第42期 しんぶん赤旗)
芝野 虎丸 七段 — 孫 喆 五段
(芝野 虎丸 七段が2勝0敗で新人王を獲得)
- (11)NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦(第65回 NHK)
井山 裕太 NHK杯 — 志田 達也 七段
(井山 裕太 棋聖が勝ち連覇)
- (12)テレビ囲碁アジア選手権(第29回 NHK、CCTV、KBS)
李世ドゥル 九段 — 羅 玄 八段
(羅 玄 八段が勝ち優勝)
- (13)竜星戦(第26期 囲碁将棋チャンネル)
余 正麒 七段 — 芝野 虎丸 三段
(芝野 虎丸 三段が勝ち初優勝)
- (14)囲碁マスターズカップ(第7回 フマキラー)
趙 治勲 名誉名人 — 小林 覚 九段
(小林 覚 九段が勝ち2度目の優勝)
- (15)ワールド碁チャンピオンシップ(第2回 日本棋院)
朴 廷桓 九段 — 井山 裕太 九段
(韓国の朴 廷桓 九段が連覇)
- (16)グロービス杯 世界囲碁U—20(第4回 グロービス)
申 真諝 七段 — 卞 相壹 五段
(申 真諝 七段が勝ち優勝)
- (17)女流本因坊戦(第36期 五番勝負 共同通信社)
藤沢 里菜 女流本因坊 — 謝 依旻 六段
(藤沢 里菜 三段が3勝2敗で女流本因坊位を奪取)
- (18)会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦 (第4回 温知会)
謝 依旻 六段 — 藤沢 里菜 三段
(藤沢 里菜 三段が2度目の優勝)
- (19)女流名人戦(第30期 三番勝負 産経新聞社)
藤沢 里菜 女流名人 — 矢代 久美子 六段
(藤沢 里菜 女流名人が2勝0敗で女流名人位を連覇)

- (20)女流棋聖戦(第21期 三番勝負 NTTドコモ)
 謝 依旻 女流棋聖 — 上野 愛咲美 二段
 (上野 愛咲美 二段が2勝0敗で女流棋聖位を奪取)
- (21)扇興杯女流最強戦(第2回 センコーグループホールディングス)
 謝 依旻 扇興杯 — 藤沢 里菜 三段
 (藤沢 里菜 三段が勝ち初優勝)
- (22)SENKO CUP ワールド碁女流最強戦(第1回 センコーグループホールディングス)
 平成30年創設。日本、中国、韓国、中華台北、欧州の女流棋士8名による世界一決定戦。
 黒 嘉嘉 七段 — 於 之瑩 六段
 (於 之瑩 六段が勝ち初代女王)
- (23)王冠戦(第58期 中日新聞社)
 伊田 篤史 王冠 — 六浦 雄太 七段
 (伊田 篤史 八段が勝ち王冠位を連覇)
- (24)広島アルミ杯・若鯉戦(第12回 広島アルミニウム工業)
 李 沂修 七段 — 姚 智騰 四段
 (李 沂修 七段が勝ち優勝)
- (25)内閣総理大臣杯 文部科学大臣賞 グランドチャンピオン戦(日本棋院、関西棋院)
 井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・十段・NHK杯 — 河野 臨 九段
 (井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・十段・NHK杯が勝ち優勝)
- (26)おかげ杯囲碁トーナメント戦(第8回 濱田総業)
 村川 大介 八段 — 李 沂修 七段
 (村川 大介 八段が勝ち優勝)
- (27)おかげ杯国際新鋭対抗戦(第4回 濱田総業)
 日本、中国、韓国、中華台北4カ国地域5名一組の団体戦。
 (中国が優勝)
 なお日中竜星戦(第4回 囲碁将棋チャンネル)は、4月29日に芝野 虎丸 日本竜星 — 柯 潔 中国竜星が対戦し、芝野 虎丸 日本竜星が勝利しました。
- (28)海外棋戦
 海外棋戦では、LG杯、三星火災杯、農心杯、夢百合杯、黄竜士双登杯、天台山農商銀行杯、穹窿山兵聖杯、利民杯、乙級リーグ(中国)に参戦しました。
 平成25年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、5年目を迎えました。
 29年度も監督、コーチ、選手の総勢45名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。
 チーム参加棋士の棋力強化に向けて、次のとおり取り組みました。
 イ 福島県耶麻郡(8月)、神奈川県三浦海岸(12月)にて年2回の棋力強化合宿
 ロ ネット対局「幽玄の間」による育成リーグの強化対局
 ハ ナショナルチームメンバーによる定期研究会

また、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、29年度はファンの皆様から339件、5,246千円の募金がありました。募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

棋士を目指す約100人の院生をAからEクラスに分け毎週土・日曜日(8回/月)に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の4月～6月期研修総合成績1位の者1名、本院・中部・関西の院生研修上位者47名と外来受験者26名が参加し8月～11月に棋士採用試験を本院・関西総本部で実施し計3名、中部総本部は院生研修リーグ総合で1名、また、12月～2月に女流特別採用を実施し1名、合計6名の棋士採用を実施しました。

- ・ 本院夏季採用(1名) 伊 了
- ・ 本院冬季採用(2名) 酒井 佑規、青木 裕孝
- ・ 中部本戦採用(1名) 長徳 徹志
- ・ 関西本戦採用(1名) 村本 涉
- ・ 女流特別採用(1名) 加藤 千笑

② 院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を143回実施しました。

③ 院生ネット指導

週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を30局実施しました。棋譜については一般公開しました。

(2) 若手棋士育成

① 囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に20歳以下の若手棋士31名が登録・参加。

福島県耶麻郡において、8月18日から22日までの日程で、U-20の一力遼七段、藤沢里菜三段を始めとする15名の若手棋士が、一般選手、監督・コーチとあわせた計15名(一部選手とコーチ兼任。関西棋院棋士を含む)。また、神奈川県三浦海岸において、12月25日から30日までの日程で、U-20の一力遼七段、藤沢里菜三段を始めとする30名の若手棋士が、一般選手、監督・コーチとあわせた計33名(関西棋院棋士を含む)で、棋力強化合宿を実施しました。

② 語学スキルアッププラン

近年の急速なグローバル化に対応するため、世界に通用する人材を育成するスキルアッププランを実施。2名の棋士(柳沢理志五段、張瑞傑二段)が、約9ヵ月間英会話スクールで受講し、最終的にレベル試験に合格しました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ 657 名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地で継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、特に小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。平成 29 年度は、小・中・高校の正課授業として 134 校 29,121 人、正課授業以外として 179 校 48,631 人が参加いたしました。平成 29 年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおりです。

北海道：岩見沢市立第一小学校他5校、**青森県**：八戸市立八戸小学校他3校、**秋田県**：能代市立向、能代小学校他7校、**岩手県**：盛岡市立東松園小学校、**群馬県**：ぐんま国際アカデミー小学校他2校、**埼玉県**：北本市立中丸小学校他3校、**千葉県**：市川市立市川小学校他4校、**東京都**：千代田区立九段小学校他 29 校、**神奈川県**：川崎市立はるひ野小学校他2校、**長野県**：小諸市立東小学校他2校、**愛知県**：長久手市立東小学校他1校、**三重県**：熊野市立有馬小学校他3校、**大阪府**：寝屋川市立東小学校他5校、**島根県**：大田市立仁摩小学校他2校、**広島県**：広島市立牛田小学校、**山口県**：下関市立名池小学校、**福岡県**：福岡市立鳥飼小学校他9校、**佐賀県**：鹿嶋市立鹿嶋小学校他6校、**大分県**：宇佐市立馬城小学校、**沖縄県**：那覇市立城南小学校他12校

〈主な行政囲碁事業の取組み〉

【東京都中央区】

平成 24 年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、平成 29 年度は 10 校の小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 37 校のうち、34 校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」(文部科学省・厚生労働省)において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

【埼玉県北本市】

平成 29 年度は、3校の小学校で囲碁体験授業を開催。教育委員会と日本棋院が連携し、事業を推

進んでいます。毎年開催される指導者講習では地元指導者を増やし、事業を盛り上げています。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、公益財団法人JKAの青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 17 カ所で開催し、約 500 人が参加しました。

(4) 大学での囲碁授業の導入拡大

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して1、2年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行っています。

② 新たに 10 大学において囲碁授業を開始

これまで囲碁授業開講をしていた東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應義塾大学、皇学館大学、青山学院大学、埼玉大学、琉球大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、近畿大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、福島大学、日本農業経営大学校、東京学芸大学、九州大学、東京理科大学、愛知学院大学、長岡技術科学大学、信州大学、佐賀大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学に加え、日本保健医療大学、高崎経済大学、群馬パース大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、高崎健康福祉大学、尾道市立大学が新規開講し、合計 39 大学等となりました。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。

平成 30 年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行い、さらに複数の大学で囲碁授業が新たに開始する予定です。

(5) がっこう囲碁普及基金の創設

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。平成 29 年度は 416 件、9,208 千円のご支援をいただきました。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。平成 29 度は、30 社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高

段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で約 1,500 局の指導碁を実施しました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で 255 件実施し、延べ 56 人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等、全国 143 か所で囲碁未来教室を開催しました。子の教室には、指導員及び棋士を派遣し支援しました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国 8 か所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

○ 第 38 回普及功労賞

- ・ 倉内 万(八王子支部長)
- ・ 大澤 完治(埼玉県支部連合会副会長)

○ 第 36 回普及活動賞

- ・ 全国で 46 名を表彰

○ 平成 29 年度優秀支部表彰

- ・ 支部ポイント数十傑 一位 三重支部(三重県)1376P
- ・ 会員増十傑 一位 石田囲碁道場支部(東京都)46 名

(7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10 月 3 日、17 日の 2 回にわたり、囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は 2005 年より始まり、今年度で 12 回目を迎えました。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟(IGF)との連携

日本棋院は、2017 年国際囲碁連盟(IGF)の副会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

- ① 4 月 28 日～4 月 30 日、米国・ワシントン D.C. のナショナル碁センターオープニングセレモニーに併せ、マイケル・レドモンド九段を派遣しました。

- ② 5月8日～5月14日、クロアチア学校囲碁普及プロジェクト囲碁ウイークにタラス・カタリン五段を派遣しました。ザグレブにある幼稚園、小中学校で囲碁入門を実施しました。
- ③ 第61回ヨーロッパ碁コンGRESは(7月22日～8月6日)ドイツ・オーバーホーにて開催され、大橋拓文六段、タラス・カタリン五段を派遣しました。
- ④ 第33回US碁コンGRESは(8月5日～8月12日)カリフォルニア州サンディエゴにて開催され、山城宏九段、鶴田和志五段を派遣しました。
- ⑤ 8月15日～19日、中国・内モンゴルのオールドスで中信証券杯第1回世界電脳戦が開催され、山城宏九段、ビアンウオンケイ二段を派遣しました。
- ⑥ 10月11日～10月18日まで第1回ラテンアメリカ碁コンGRESがメキシコ・カンクンにて開催され、円田秀樹九段、小松大樹三段を派遣し、ワークショップ、講義、指導碁などの囲碁活動を行いました。
- ⑦ 在ドイツ日本国大使杯囲碁大会が10月6日～8日、ベルリンの在ドイツ日本国大使館にて開催され、大橋拓文六段を派遣しました。また、大橋六段には日本大使杯の終了後、10月10日、在アイルランド大使館の依頼でアイルランド国立大学ジャパンウイークに派遣しました。
- ⑧ 10月9日、英国エジンバラ、マンチェスターへ囲碁指導のため、タラスカタリン五段を派遣しました。その後、10月20日からオランダ・アムステルダムヨーロッパ囲碁文化センターにて開催される創立25周年記念イベントにもタラス・カタリン五段を派遣いたしました。
- ⑨ 2018年3月16日～24日までシアトル碁センターに張瑞傑二段を派遣し、地元シアトルの愛好家を中心にワークショップを開催、囲碁指導を行いました。

(3) サマー碁キャンプの開催

8月25日から9月6日まで、外国人愛好家を対象にした囲碁研修を実施しました。棋力向上と、日本の囲碁文化を学ぶという目的のもと8月25日～30日(京都・大阪コース)、9月1日～6日(東京コース)の2コースを開催しました。参加は延べ20名、研修は、すべて英語で実施しました。大阪では名人戦第1局前夜祭に参加、対局初日を観戦。東京では宝酒造杯東京大会に参加しました。

(4) ASEAN 囲碁研修

11月14日～11月21日、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、ブルネイの5カ国22名が参加し、囲碁指導者の育成指導、学校教育に囲碁を導入するための共同研究・協働作業を行った。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供し、延べ27,120人が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上やスマートフォン・タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供しています。

(3)貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1)段級位認定大会

都道府県民まつりでは、3,642 人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2)紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3)情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4)幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する県の日本棋院県本部あるいは・県支部連合会と連携し、または支部の協力を得て、囲碁大会の主催 634 支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会を実施しました。そのほかにも子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1)第 41 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

高校生を対象とし、個人戦と 3 名一組の団体戦をそれぞれ男女別に合計4部門に分かれて行われる大会です。都道府県大会には全国で 1,378 校 4,044 名(男子:2,955 名・女子 1,089 名)が参加。参加校数が大きく伸びました。

代表選手が集まる全国大会は7月 24 日から 26 日にかけて東京・日本棋院で行われました。

男子団体戦は春日部高等学校(埼玉)、女子団体戦は白百合学園高等学校(東京)が優勝、男子個人戦は栗田佳樹さん(神奈川・港北高等学校3年)、女子個人戦は岩井温子さん(京都・洛北高等学校1年)が優勝しました。

本大会は公益財団法人 JKA の青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2)第 14 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学生を対象とした3名1チームの団体戦です。都道府県大会は小学校 358 校、1,162 人、中学

校 166 校、689 人が参加しました。

全国大会は 7 月 30 日～31 日に東京・日本棋院で実施され、小学校の部は大分市立金池小学校(大分)、中学校の部は駒場東邦中学校(東京)が優勝しました。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3)第 38 回 文部科学大臣杯少年少女囲碁大会

小・中学生を対象とした個人戦で、都道府県大会には小学生 3,339 名、中学生 994 名、合計 4,333 名が参加。県内複数個所での開催、入門講座や初級者大会も実施しました。

全国大会は、8 月 1～2 日に東京・日本棋院で実施され、その模様はNHK Eテレで放送されました。

小学生の部優勝は宮谷風雅さん(東京・江戸川区南葛西第二小学校6年)、中学生の部優勝は北芝礼さん(愛知・名古屋市立藤森中学校3年)でした。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4)第7回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

小学生を対象とした個人戦で、低学年の部、高学年の部に分かれています。

全国大会は 12 月 16～17 日に岡山県倉敷市で行われ、こども棋聖の称号をかけて競いました。

低学年の部は川端篤志さん(大阪・松原市天美小学校 3 年)、高学年の部は保田翔太さん(愛知・名古屋市立植田小学校 6 年)が優勝しました。

(5)その他の主なこども大会

- ・ ロッテこども大会:「コアラのマーチ」のキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、入門から級位者まで約 1,050 名が参加しました。

- ・ ジュニアフェスティバル:ガーデンテラス紀尾井町を会場に、著名棋士がゲストに登場。保護者も含め 1,000 名以上が来場しました。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

(1)第 10 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦まで9クラスに分かれての棋力別大会。全国 12 都市、13 会場で延べ 15 回の大会を実施し、約 10,000 名が参加しました。2018 年 1 月 21 日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2)アマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦

アマチュア碁界三大棋戦であるアマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦は本年も全国から多数の参加を頂き、全国大会を東京・日本棋院で実施しました。

第 12 回朝日アマチュア囲碁名人戦全国大会は7月1、2日に実施、大関稔さん(招待)が優勝し、アマチュア名人位への挑戦者となりました。決勝三番勝負も勝利しアマ名人位に輝きました。

第 63 回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会は8月 19、20 日に開催、林隆羽さん(埼玉)が栄冠に輝きました。

囲碁・将棋チャンネル杯第 39 回 世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦は9月 16～17 日に行われ、村上深さん(招待)が世界アマ世界大会への切符を手に入れました。

(3) 第 60 回全日本女流アマチュア選手権戦

女流のアマチュアを対象とした大会。3月 10～11 日に東京・日本棋院で全国大会を開催しました。久代迎春さん(千葉)が初優勝に輝きました。

(4) 第 55 回女流アマチュア都市対抗戦

女流のアマチュア5名1チームの団体戦で、アマ碁界最大規模の都市対抗戦。10月 16～17 日の2日間、東京都千代田区で開催しました。全国から 700 名の選手が参加し、8クラス中最上位のAクラスは白百合会(神奈川)が優勝しました。

(5) 第 17 回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

アマチュアなら誰でも参加できる1チーム3名編成の団体戦。東京と大阪で開催し、それぞれの優勝チームによる決勝戦を 12 月3日に東京・日本棋院で実施しました。決勝戦を勝ち抜いた「ぴかちう学園」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(6) 阪急納涼囲碁まつりの開催

「阪急納涼囲碁まつり」は、東京は 8 月 11～12 日、大阪は 8 月 13 日～14 日にそれぞれ開催され、合計約 2,800 名のファンが来場し、公開対局、囲碁大会等の様々なイベントに参加しました。

(7) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,094 人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,206 人が参加しました。

(8) 全国規模イベントへの参加

10月 16 日から 17 日に長崎県西海市で行われた「ねんりんピック健康福祉祭」へ、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣したほか、その他のさまざまなイベントにも棋士を派遣する等を通じて参加・協力を致しました。

(9) インターネット大会

インターネット対局サイト「幽玄の間」を利用し、第 16 回囲碁アマチュア竜星戦スカパー！杯ネット囲碁選手権(参加者数 1,088 名、前年比+53)、第3回ネット囲碁都道府県対抗戦(参加者数 288 名、前年比-22)の大会を実施しました。

(10) その他大会等

平成 25 年から1月5日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しています。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等への協力

(1) 第 38 回世界アマチュア囲碁選手権戦

囲碁のオリンピックともいわれる「第 38 回世界アマチュア囲碁選手権戦(6月1日から4日)」が中国・

貴州省 貴陽市で盛大に開催され、日本代表として坂本修作選手を派遣。2010 年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、日本・中国・韓国で2年ごとに開催国が交代する輪番制となっています。

(2) 第4回世界大学生囲碁選手権

7月9日～11日、上海応昌期教育基金会在主催する世界大学生囲碁大会がタイ・バンコクにて開催。日本は大学生12名を出場させた。

(3) 第17回ハンファ生命杯 少年少女囲碁選手権戦(主催:韓国アマチュア囲碁協会=KABA)

7月26日から29日にかけて韓国ソウルにて開催。日本からは2名の子どもたち及び松本武久七段を監督引率者として派遣しました。参加選手は中国、中華台北、日本、ヨーロッパ、タイ、インドネシア、ベトナムから計11名の対戦となりました。

(4) 第12回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

9月9日～15日、韓国・全羅北道扶安にて開催され、日本からアマ代表の大関稔選手が参加しました。

(5) 第34回ワールドユース囲碁選手権戦

7月18日から7月23日に、タイ・チェンマイで開催されました。カナダ、中国、ヨーロッパ、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、アメリカから小学生名12名 中学生10名、計22名が一堂集結しました。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2018年3月27日合同表彰式を実施しました。

(1)大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第47回大倉喜七郎賞

- ・笹川 陽平氏 公益財団法人日本財団会長 同笹川平和財団名誉会長
- ・小山 鎮男氏 日本棋院棋士八段(東京本院所属退役棋士)
- ・矢田 美英氏 東京都中央区長

(2)秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される棋士に贈呈されます。

第55回秀哉賞

- ・井山 裕太 棋聖・名人・本因坊、王座・天元・碁聖、十段・NHK杯

(3)棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」(昭和42年)によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第51回棋道賞

- ・最優秀棋士賞 井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・十段・NHK杯
- ・優秀棋士賞 一力 遼 八段

- ・新人賞 六浦 雄太 桐山杯、芝野 虎丸 竜星・新人王
- ・女流賞 藤沢 里菜 女流立葵杯・女流名人・扇興杯
- ・国際賞 井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・十段・NHK 杯
- ・最多勝利賞 芝野 虎丸 竜星・新人王 53 勝 13 敗(66 局)
- ・勝率第1位賞 許 家元 七段 0.8036(45 勝 11 敗)
- ・連勝賞 井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・十段・NHK 杯
- ・最多対局賞 芝野 虎丸 竜星・新人王 53 勝 13 敗(66 局)

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰(殿堂入り)します。

- ・平成 29 年度 正岡 子規

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

- ① 月刊「碁ワールド」定価 885 円 毎月 20 日発売 B5判 152 頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。巻頭企画は、アルファ碁 VS.李世ドルワールド碁チャンピオンシップ・碁AIが、世界戦に初参戦、アルファ碁VS柯潔、藤沢里菜女流四冠、DeepZenGo(碁 AI)特別座談会、井山二度目の井山七冠、井山国民栄誉賞等を特集、掲載しました。

- ② 月刊「囲碁未来」定価 637 円 毎月5日発売 B5判 100 頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。

- ③ 新聞「週刊碁」定価 280 円 毎週月曜日発行 タブロイド判 20 頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマチュア大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成であり、囲碁愛好者に情報を発信しました。

- ④ 「囲碁年鑑」定価 3,780 円 年1回発行 B5判 396 頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成 28 年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

- ① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、棋戦情報、大会・イベント情報、棋士に関する情報、出版情報など、囲碁に関する様々な情報記事を日本語のほか、英語・中国語・韓国語で提供しています。

年間 1,300 件以上の最新囲碁ニュース(棋戦結果速報)やイベント情報記事を更新し、全世界で延 129 万ユーザーから年間 2387 万アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を 2,000 局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを提供しています。そのほか、同好会機能による囲碁ファン同士の交流も子なっています。

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60 年以上に亘る、5万局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④ 囲碁アイランド

主に若年層の入門を促進するため iOS と Android で囲碁アイランドの提供を平成 27 年より開始しました。アニメーションと問題を解いて囲碁のルールを覚え自然に上達できる本ソフトは利用者から好評をいただいています。

⑤ 電子書籍アプリ

iPhone & iPad 端末からは「i碁BOOKS」、パソコンからは「e碁BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍を電子書籍アプリで配信しました。

⑥ YouTube「日本棋院囲碁チャンネル」

2018 年2月に映像配信サイト「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦や表彰式をライブ配信しました。配信イベント数 20 回、チャンネル登録者数 2,689 名、視聴回数 135,533 回、総再生時間 46,687 時間でした。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。平成 29 年度入館者数は 350 人、特別対局室見学者は 620 人。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

有楽町囲碁センターは、平成 25 年 6 月に移転以降、4年が経過しますが、立地の良さ並びにファンの皆様に喜ばれるイベント等を開催して今年も多くのファンに来館頂きました。

(1) 各種大会の開催(主なイベントの参加人数は以下の通り)

- ・お楽しみ囲碁大会 242 人
- ・段級位認定大会 808 人
- ・松竹梅囲碁大会 751 人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は 57,296 人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン(会員制)」を運営し、両サロンで囲碁イベント、貸室、懇親会そして教室等を開催しました。

(1) 各種大会の開催および後援(主なイベントの参加人数は以下の通り)

- ・ 夏休み子ども囲碁フェスティバル (延べ 500 人)
- ・ 歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり (135 人)
- ・ 阪急電鉄 納涼囲碁まつり (2 日開催 1,400 人)
- ・ 定例段級位認定大会 (年 6 回開催 540 人)
- ・ 級位者大会[年 5 回]および各種親睦大会[年 16 回](合計 864 人)

(2) 会館事業の充実(梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン)

- ・ 「梅田囲碁サロン」を年末年始以外、年中無休で営業し普及に努めました。会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行いました。また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善に取り組み、年間約 23494 人に利用して頂きました。
- ・ 「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして大阪市北区茶屋町で営業しております。会員数は現在 41 名、法人会員は1社が新たに登録し6社と順調に増え、新たな顧客ニーズに対応した普及を行っております。

(3) 大学での囲碁講座開設への取り組み

平成 29 年度は関西圏の大学3校で囲碁講座が取り入れられました。引き続き若者層への普及拡大として今後も各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行います。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校や幼稚園等に総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう働きかけました。平成 29 年度は尼崎こども本因坊戦、そして昨年に引き続き大阪府寝屋川市、広島県廿日市市では地域主催のこども大会および入門教室が開催され囲碁授業導入の足掛かりとなりました。また、すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等も行いました。今後も引き続き子ども達への普及をより一層拡大するように努めます。

(5) 当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏の中心都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として、各地域の支部や囲碁団体の協力を得て平成 29 年度は昨年度より1地区増の8地区において大会を開催し合計 536 名が参加しました。また、上記大会の開催により地域との連携強化が図れ、個人、支部会員等の維持拡大と支部を拠点とした普及活動の充実に努めました。

10-4 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・囲碁ゼミナール (50 人)
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦 (78 人)
- ・ジャンボ団体戦 (209 人)
- ・中部こども級位者大会 (181 人)
- ・セントレア囲碁まつり (201 人)
- ・会員と棋士囲碁のつどい (98 人)
- ・日経杯新春囲碁大会 (169 人)
- ・江蘇省囲碁交流 (107 人)

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・中日新聞社主催「第 58 期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日 1 名、土・日曜日は 1、2 名の棋士を配し、充実に努めました。入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全 13 講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。「はじめての囲碁講座～よく分かる囲碁講座」（834 人）、「こども教室」（202 人）、「実力向上講座」（177 人）、「レディース講座」（121 人）、「目指せシングル・初段」（381 人）、「特別高段講座」（200 人）、「総合講座」（280 人）、「モーニング講座」（199 人）

(4) 部屋の貸付

平成 29 年度では、5 社に対して部屋の貸付を行いました。（4 社から、1 社が増え合計 5 社）。

10-4 海外囲碁センター

(1) 2014 年 5 月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会と提携して米国 NPO 法人『岩本北米基金＝INAF』を創設し、アメリカ東海岸センターの活動促進、文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の支援をしています。

(2) シアトル碁センターは全米各地から来場する囲碁ファンが増えており、北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、毎年シアトルへ棋士派遣を行う等、現地法人と連携を取り合っています。

(3) ブラジル・サンパウロにあるブラジル日本棋院（南米本部）は、建物の老朽化に伴い補修を行い、引き続き有限会社の清算、高齢化した組織体制の見直しを行っています。オランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センター（EGCC）は、やはり建物の老朽化のため修繕が必要で寄付を募っています。2017 年は創立 25 周年記念式典・イベントを盛大に開催しました。また、囲碁普及に貢献したプロジェクトに贈る賞として第 2 回目となる「世界岩本アワード 2018」の募集を 3 月開始いたしました。

Ⅱ 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業(収益事業1)

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるのもので、9級から八段までの 952 通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

制度を改定し、囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、従来の初段以上から9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を拡大し、指導者の充実を目指しました。六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2 不動産賃貸事業(収益事業2)

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では2F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業(収益事業3)

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する書籍を日本棋院各拠点の売店及び全国の書店で販売しました。

本年度は「古典詰碁の魅力」、「古典詰碁の世界」、「高尾紳路不惑の出發」、「ヨセの強化書応用編」、「よくわかる囲碁AI大全」、「囲碁の手法 上」、「囲碁の手法 下」、「世外方円」の新刊を発刊した。

Ⅲ 管理部門

1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。平成 29 年度は、内部統制取組方針に基づき、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取組みを実施しました。

2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図りました。「GO・碁・ジャパン」応援募金、「がっこう碁普及基金」、法人賛助会員等の維持拡大を図り、囲碁の普及のために有効活用を図りました。

3 事務の効率化による経費の削減

日本棋院内のITシステム全般を見直すとともに、各種手続きや業務を見直すことにより、経費の削減に努めました。

4 「囲碁大使」の拡充

日本棋院創立 90 周年事業の一環として新設した、財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」については、平成29年度に新たに5名の方に委嘱し、合計10名となりました。

IV 「100周年ビジョン」の推進

囲碁人口の減少、日本棋士の強化、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立 90 周年にあたる平成 26 年に、10 年後の 100 周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100 周年プロジェクト」を開始しました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の 10 の行動を提言し、継続的に取り組むこととしています。

〈100周年の姿〉 囲碁人口 500 万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

(1) 教育への導入

- ・ 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の正課授業の拡大（96校⇒134校）
- ・ 大学の囲碁部への支援 ⇒ 全日本学生囲碁連盟との連携強化
- ・ 大学への囲碁講座の拡大（30大学⇒39大学）

(2) 社会人と女性・高齢者への普及

- ・ 企業新入社員研修等に囲碁を導入
- ・ 囲碁ガールズの拡大
- ・ 基会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大
⇒ 全日本囲碁協会と連携強化

(3) 草の根囲碁普及活動の支援

- ・ 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一
- ・ 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援
- ・ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化

〈100周年の姿〉世界トップ 10 に2人、トップ 20 に4人、トップ 50 に 10 人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

(1) 棋士の登用

- ・棋士採用時に社会人としての人格構成を院生師範と強化
- (2) 若手棋士の育成
 - ・ナショナルチームの活動強化⇒棋力強化合宿、海外棋戦への積極的参戦
 - ・ジュニアアカデミーによる全国から才能ある人材を集める。
- (3) ランキング制度の導入
 - ・国内ランキング制度の検討⇒IGF ランキング制を参考に継続検討

〈100周年の姿〉日本棋院会員を10万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

- (1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ外部人材を登用(理事15名中 外部理事7名)
- (2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を、重視する棋士の報酬制度のあり方を検討
- (3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。
- (4) 財務基盤強化
 - ・棋士の報酬に係る財務分析を行い、将来にむけた対策を検討
 - ・会員制度の改革…個人会員・ネット会員を見直し、新たな日本棋院会員を創設

(基本方針)

- イ 無料ID者を棋院会員に取り込む。⇒有料化メニューへの誘導
- ロ 紙面会員の15メニューは、統廃合の整理。また、紙面会員は、高齢層、収支への影響を考慮し、継続するが、減収に歯止めは掛からないので、新サポート会員の拡大を図ることにより減少に歯止めをかける。
- ハ 新規会員は、基本的にネット申込会員とする。〈新サポート会員〉
「幽玄の間」会員は、魅力のあるサービスの展開を図り収益の拡大を図る。
- ニ、会員拡大、収納管理の効率化、大会申込等の入会システムの改善、物販システム効率化等のためにECサイトの導入を検討中
- ホ 囲碁ファンの入り口としてのHPの使い勝手などを継続的に見直す。
 - ・ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化して、ロングテールでの収入増へ。
 - ・日本棋院ドリームファンディングによる13路盤プロ・アマトーナメント戦実施

〈100周年の姿〉地域対抗、実業団が加わり、囲碁コンGRESがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コンGRESの創設

- (1) 地域対抗プロ・アマ棋戦の創設
- (2) 実業団対抗戦の創設
- (3) ジャパン碁コンGRES開催

【2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて】

- ・世界アマチュア囲碁選手権、サマー碁キャンプの開催などや地域囲碁サミット、地域碁コンファレンスを開催する。

- ・ 議員囲碁連盟、行政(文科省、文化庁、東京都庁、外務省等)への取組推進
 - ・ 世界アマチュア囲碁選手権開催に向けたスポンサー確保
- (4) タイトル戦をファンがより楽しめるような仕組み検討
- (5) 遠隔地の方との対局には、ネット対局を拡大
- ・「幽玄の間」会員による地域対抗戦の開催など継続実施

〈100周年の姿〉 ネット会員 10 万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

- (1) ネット戦略を構築するため継続的に抜本改革を行う。
- (2) 「幽玄の間」のサービス拡充
- ・「幽玄の間」会員の拡充のためのサービスメニュー検討、情報会員の見直し
- (3) 入門・初級者戦略
- ・入門・初心者向けアプリ「囲碁アイランド」(IOS Android) の拡充
- (4) YouTube に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、対局等の映像を配信し、普及・ビジネスの拡大を図る
- (4) ホームページの活用
- ・ホームページの更なる利用向上
 - ・大会参加や会員入会、資金決済を念頭に置いたECサイトの導入検討
 - ・広報・宣伝機能の充実(専門家の登用検討)

〈100周年の姿〉 囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。ニコ動、ユーチューブ中継 10 万人以上が活用

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

- (1) 日本棋院内に専門家によるメディア戦略・広報チームを組成
- (2) 既存メディア(TV、新聞、雑誌)との関係強化
- ・タイムリーなニュースリリース発信、新聞各社との連携強化(記者発表等)
 - ・スタープレイヤーの積極的掲載・取材による「囲碁」の PR 推進
- (3) 新規メディアの開拓
- ・ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアも活用
 - ・ニコ動、ユーチューブ等動画の活用 ⇒YouTube「日本棋院囲碁チャンネル」の開設
- (4) 漫画、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

〈100周年の姿〉 東京オリンピック・パラリンピックで囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コンGRESSがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。

行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックにあわせた囲碁の世界発信
- ・「サマー碁キャンプ」等のイベントを拡大し、インバウンドを充実

- ・2018年～2019年の世界アマチュア選手権誘致、2020年オリンピック・パラリンピックでのマインドスポーツメニュー検討と行政への働きかけ
- (2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターの拠点、また、INAF(岩本北米基金)を活用した日本囲碁の世界への普及拡大
 - ・INAFインバウンド・アウトバウンドプログラム実施
 - ・EGCC碁キャンプへの継続協力
 - ・サンパウロ南米本部の新たな体制と普及の拡充(碁センターの運営等)
 - ・USコンGRES、欧州コンGRES、ラテンアメリカコンGRESへ棋士の派遣による囲碁普及の拡大
 - ・海外大使館との連携による囲碁普及拡大⇒外務省への協力依頼
- (3) コンテンツを翻訳し日本発囲碁コンテンツを展開する
 - ・HPには英語・中国語・韓国語で訳せる機能導入提供
 - ・AI 棋戦や世界棋戦での英訳等中継発信

〈100周年の姿〉 囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

- (1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能を組み合わせ、指導法を確立する。
 - ・「Deep Zen Go」との協同⇒2017年度終了
- (2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人・シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。
 - ・子供にとって囲碁による情操面、頭脳面での効能
 - ・囲碁と学業成績との相関性実証調査
- (3) 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想など、ビジネスへの活動分析を深める。
 - ・大学正課授業導入拡大、企業での社員囲碁講座導入の推進
- (4) シニア向けの研究を強化する(絆づくり、アルツハイマー研究、認知症研究)

〈100周年の姿〉 地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

- (1) 日本棋院の地域普及の柱
 - ・地域定住棋士制度の創設検討
 - ・独立採算制が可能なブロック制検討 ⇒ 九州本部での検討中
- (2) 本部・県連・支部活性化と普及の拡大
 - ・県本部・県連と連携し普及強化(棋士派遣等)を行い支部組織の活性化
 - ・囲碁愛好家の底辺拡大のため「入門・初心者」会員の継続的拡充
 - ・常務理事による地域アカウント体制の継続検討
 - ・支部代表者懇談会を捉えた支部等意見の課題対応
- (3) 「囲碁祭り」のような地方自治体との強化体制を図りながら、地域の囲碁活性化を図る。
 - ・平塚囲碁祭り、川越囲碁祭り、徳川家康囲碁祭りin静岡などの拡大

- ・日本棋院主催、後援大会等の積極的支援
- ・囲碁サミット加盟市町村並びに 県本部等を中心とした地方自治体との体制強化を行い、地域の囲碁活性化を図る。⇒市長・教育長へのアプローチによる囲碁大会、学校授業拡大。地域の絆作りに囲碁を積極的に提案
- ・震災復興祈念囲碁イベント支援

〈100周年の姿〉ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

- ・9路盤、13路盤のスマホアプリの拡充 ⇒ 13路盤プロ・アマ戦
- ・トライボーディアン(囲碁、将棋、オセロ)選手権
 - ・ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクター採用によるホームページ、雑誌、新聞等への活用。

役員等に関する事項

平成 30 年3月 31 日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総 裁	今井 敬	H16.7.13	総 裁	新日鉄住金株式会社 名誉顧問
顧 問	大竹 英雄	H24.6.26	顧 問	日本棋院棋士 九段
理 事 長	團 宏明	H28.6.28	理 事 長	公益財団法人通信文化協会 理事長
副理事長	山城 宏	H24.6.26	副理事長	日本棋院棋士 九段
			棋院事業の全体統括、 財務部・経営企画室、 海外室	
常務理事	大淵 盛人	H26.6.24	総務人事部	日本棋院棋士 九段
〃	円田 秀樹	H26.6.24	関西総本部	日本棋院棋士 九段
〃	小林 千寿	H28.6.28	棋戦企画部	日本棋院棋士 六段
			2020 年東京オリンピック・ パラリンピック	
〃	平野 則一	H22.7.30	普及事業部	日本棋院棋士 五段
〃	原 幸子	H28.6.28	インターネット事業部、出版部	日本棋院棋士 四段
〃	重野 由紀	H28.6.28	中部総本部、海外室補佐	日本棋院棋士 二段
理 事	岩崎 和人	H27.6.23		九州通信ネットワーク株式会社 代表取締役社長
〃	小川 誠子	H24.6.26		日本棋院棋士 六段
〃	齋藤喜以子	H27.6.23		くらし・まちづくりコーディネーター
〃	角 和夫	H25.6.25		阪急電鉄株式会社 代表取締役会長
〃	土屋 弘志	H29.6.28		大成建設株式会社 常務執行役員
〃	堀 義人	H25.6.25		グロービス経営大学院 学長
〃	松浦晃一郎	H23.6.21		元ユネスコ事務局長、世界ペア碁協会会長
監 事	久保 秀夫	H28.6.28		日本棋院棋士 七段
〃	満田 庸一	H28.6.28		公認会計士

平成 29 年度 事業報告

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 30 年6月

公益財団法人 日本棋院